

## アジャセからの贈り物 - 耳で聞く教行信証の世界 -

講師 仏教研究家 都路恵子

はじめまして、都路と申します。今日は青年僧侶の会「初回」に呼んでいただきまして光栄に思います。会長様の方から、私の肩書きをどうするかと言うことで勝手に仏教研究家とさせていただきます。私は、大学院で仏教を学んでまいりました。普通は「仏教研究者」といわれますが、日常の日々の生活の中で聞きたい、また 生き方と研究が離れないような研究がしたいとの思いもありまして、勝手に「仏教研究家」と名乗っております。

今日は、私が紆余曲折しながら親鸞聖人の教行信証に出会っていくまでの人生物語をお話させていただいて、今、この教行信証から私自身何が聞こえているのかを、生活に即してお話させていただこうかと思っております。教行信証といいますと難しいイメージがあります。日々 読授する正信偈は教行信証の巻に入っております。教行信証のエッセンスは勤行を通して私たちは日々接しているわけです。では、教行信証にはいったい何が書かれてあるのか？というのが、今日お伝えしたいテーマであります。

私は、お寺の長女に生まれました。母のお腹にいたころから 毎朝おあさじにお参りしていました。両親は仏教的に私を育てたいと思っておりました。幼いころはすごく私も純粋で、素直な子供でありましたが、だんだん自我が出てまいりまして、両親に反発するようになったんですね。日曜学校に行くんですけども、阿弥陀様のお話を聞いても目に見えない世界のことですから実感が湧かないんですよ。それで色々疑問が湧いてきました。阿弥陀様いるのなら見せてよとか、本当にいるの？と言う感じの疑問が湧いてきたわけです。私が高校に入りますと、だんだん知恵が付いてきまして、テレビのニュースを観ていると宗教戦争の話題がありまして、どの宗教も人々の救いを説いているのになぜ宗教が違おうと言う理由で人と人は争いになり殺しあうんだらうか？十代の私にはなんで？って感じだったんですね。おかしいのではないかと思いました。考えてみるとそれは、自分の宗教だけが正しいと思っているところから争いは起こるのではないかと思います。共存していく道を求めるのが宗教のありかたではないかと思えます。信仰とか信心の事を聞きますと、それって人間の思い込みじゃないの？一人ひとりが思い込んでるだけなんじゃないの？と言う風な疑問が湧きました。すごく生意気で失礼な発言かと思うんですが、十代の私にはいっぱい湧いてくるんです、何でなんでというような疑問が。それで、私は大学で宗教哲学を学ぼうと思いました。大学では本当に色々なことを学びました。まずは、キリスト教のキルケゴールという人を勉強しました。なぜこの人を勉強したいのかと思ったという、この人は理屈で信仰とは何かを説明してくれたからです。浄土真宗の教えで何が解らなかったのかというと、理屈についていけないんです。ポーンて飛ぶ感じがするんです。「阿弥陀様ありがたいですよ」とか、「生かされてるんですよ」とか言われても今の十代の私で

すから理屈で追っていけないんです。よくわからない。ですから、理屈で説明してくれるキルケゴールが良いと思ったのではないかと思います。でも、だんだんと解らないことが出てくるんですね。「イエスキリストが全ての人の罪をあがなってくれて私たちは神と出会うことが出来る」そこが、私にはピンと来ない。お寺生まれの私なので、どうしても身体に合いませんでした。それで次は禅寺に通いました。京都の相国寺の一般者が参加できる座禅の会がありましたので、そちらのほうに通いました。週一回3時間、間20分の休憩があります。最初は足が痛くて痛くてもうどうしようもなかったのですが、だんだん座禅している状態に身体が慣れてきました。ほかの事を何も考えないで吐く息と吸う息に身を任せる状態がとても心地よく思えてきました。頭ではなく体験できる座禅は良いなと思いました。ところがひとつ疑問が湧いてきました。それは、座禅をしてるときの私と、日常生活をしているときの私がつながらないんですよ。座禅のときは心が穏やかになってくるのですが、日常生活にどう生かしていくのかが解りませんでした。で、結局乖離している状態のままでしたので、ちょっとこれもまた駄目かなと思いました。その中でイスラム教のコーランを読んだり、もう色々なことを試してみました。しかし、何をやっても身体にじっくりこなかった。実感としてどこか違和感がある。それで色々やってみて、私の身体にじっくりくること実感できることを求め、それでぐるっと回って最後、親鸞聖人に戻ってきてしまったんですね。スタート地点は親鸞聖人のところからでした。で、どうしてもわからないから外へ外へ求めていきました。ところが何をやっても実感できない私は、結局実感できるものを求めて行って、最終的に親鸞聖人を研究しようと思いました。もう何をやっても駄目でしたので、選択肢が無い状態でした。

大学院で研究をいたしました。私の先生が、「親鸞聖人を研究するのであれば、主著である教行信証を学びなさい」とおっしゃったのです。それで、読んでみると、これが非常に難しい。教行信証は聖人ご自身の文章がとっても少ないんですよ。引用文がたくさんあり、私の今までの本のイメージとはまったく違いました。どう手をつけてよいかわからず、とりあえず、宗門校の龍谷大学、大谷大学、西本願寺の教学研究所という所で講義を受けてみることにしました。それと平行して、大谷派、西本願寺派を問わず、教行信証関係の本を片っ端から読みました。でも分からない、講義を受けてもなかなか分からない。解説を読んでも分からない。で、困って金子大栄先生の翻訳を読んだんですね、それでも分からない。だんだん打つ手が無くなっていくわけです。それで、蓮如上人が書写をされていたことを思い出したんですね。蓮如上人は書写をすることで身体になじんでいったということを講義で聞きまして、私も書写してみました。漢字を一文字一文字写すので時間が掛かってしょうがないんですよ。私は一回目の途中「信の巻」で手が痛くなって書けなくなってきましたし、あまりにも時間が掛かるのでこれも駄目だったんです。もう何をやっても駄目でした。どうすればこの教行信証が分かるのか知りたい。私の前に分厚い扉がありました。そこで私は初心に帰るつもりで、西本願寺で毎朝ある、おあさじに行くことにしました。すごく静かな時間があって、いいなと思ったんですね。とりあえず毎朝通いました。

そこで、50年間も毎朝通ってるおばあさんに出会いました。その方は自分の中から湧いてくるお味わいをキラキラした目で話されるわけです。やっぱり、何ていうんでしょう、私は今まで机の前だけで、本を読んだり講義を聴いたりしていたわけです。いわゆるお勉強としてやってたわけです。おばあさんが語ってくれる言葉は、自分の生き方のなかで実感されている言葉なんです。その方と話をするのが心地よかったです。それで毎朝通い続けました。9月10月と、気候が非常に良かった。すがすがしい気持ちになれました。ただ、11月12月となると京都は非常に寒い。本当に寒いですよ、2月になるとだんだん人が少なくなってきました。お参りの方よりも僧侶のかたのほうが多いぐらいになってくるんですね。寒さのあまり、もうやめようと思いました。結局、半年しか続かなかったんですね。やめてみて分かったことがありました。朝のお参りに行ってた期間というのは、如来様の眼差しの中で日中の生活が行われていることに気付かされました。如来様に私が見られているような感じがしていました。それまでは、私が理解しようと思っていましたが、私が見ているのではなくて、自分の方が観られていることに気付いたのです。ですから、仏教が生き方になるには、私の今までのように、机の上で勉強しては駄目なんだと思いました。やっぱり仏教が生き方になるには、こころや身体に響くようなかたちで求めていかなければいけないんじゃないかと思いました。その実感があつたんですけれども、いまだ、分厚い扉が私の前にありました。しかし、意外なところから教行信証の扉をひらく本に出会ったんです。大平光代さんが書かれた「だからあなたも生き抜いて」という本です。浄土真宗と全然関係ない弁護士の方です。この方は、難関といわれる弁護士試験の勉強をするのに、声に出して六法全書を読んだそうです。それを、録音してヘッドホンでひたすら聞く、という事をしたそうです。これだ！を思いました。そこで私は教行信証を耳で聞くことにしました。教行信証を音読して、テープに吹き込みました。約一ヶ月かかって、教行信証の朗読テープを作りました。教行信証そのものを聴聞することで、理解できるに違いないと思いました。なぜなら、「浄土真宗は、聴聞にきわまる」といわれているように、耳で聞くことが重要視されているからです。それで、ひたすらそのテープを聴き続けました。最初は、聞きづらかったのが、だんだん慣れてきました。耳が教行信証に慣れてくるんですね。教行信証は現代の日本語とは違う言葉のリズムがあるんですね。漢文独特のリズムが次第に私の身体のリズムになっていくんです。とりあえず。3ヶ月ほど聞き続けました。部屋の中で教行信証が流れれていることにだんだん違和感が無くなってきました。最初は自分というものに教行信証を合わせようとしていました。3ヶ月聞き続けているうちに、私の身体の方が教行信証のリズムに合うようになってきました。本当に変化がわからないくらい徐々にでした。いままで、教行信証は無意味な引用文の羅列だと思っていたんですね。ところが、引用文というのが、親鸞聖人が経典を読まれたときに如来様が直に親鸞聖人に説法してらっしゃるかのように感じるところを引用しているんだと思うんですね。親鸞聖人は苦悩の人生の中で経典を読まれていました。そのときに親鸞聖人が感じられた個所が引用されているんですね。私はこのように聞かせていただきましたと。

自分自身の人生を通して聞いていらっしやる。「如是我聞」なんですね。今まで冷たい感じがしていた教行信証にサーッと血が通いました。生きている温かさが感じられました。耳で聞いてみて親鸞聖人が人生をかけて聴かれた聴聞の記録、聞法録であると思いました。学問的に書かれたのではない、そこには、親鸞聖人の生き様があったんだなと思いました。それまで、私は自分の理性を頼りにして本を読んだり、講義に行ったりしていました。自分の方から如来様にアプローチをしていたわけです。でもわからない。努力しているはずなのに、とっていました。でも、耳で聞いてみると、如来様から私への語りかけを聞いていくしかないんじゃないかなとおもいました。つまり、方向が逆だったわけです。教行信証が難しいのではなくて、私が難しくしているんだということに気付かされました。浄土真宗が聴聞に極まるというのを実感いたしました。ただ、聴くしかなかったんだということを知られました。

私は教行信証を3ヶ月間、何度も聴いたわけですが、その中で私の心を捉えたのは、「信の巻」に登場いたします、「アジャセ物語」です。親鸞聖人は、教行信証にこの、アジャセ物語を非常に多く引用されておられます。アジャセ物語とは次のような物語です。

「王国の後継問題に悩む国王ビンバシャラと王妃イダイケは、占い師の予言に振り回され、我が子に生まれ変わるという仙人を殺害。仙人の復讐予告の末に生を受けたアジャセ。

その後王子として成長するも、出生の経緯を知るや否や父王を幽閉殺害、母妃も幽閉し王座を奪う。ところが後悔の念から全身に瘡ができ、不治の病に苦しむことに。

医者や学識者からも見離され、地獄へ墮ちることを確信し怖れるアジャセに救いはあるのか」という物語です。

なぜ、教行信証にこれ程で多く引用されているのでしょうか？何でなのかずっと考えてきました。これには理由があります。この物語は、全ての人の救いを語っているからです。では、なぜアジャセは、父親を殺したのでしょうか？そのことに対して考えるヒントを与えてくれたのが、私にご縁があった、国立病院付属看護学校の18、19歳の学生さんだったんです。学生さんたちが病棟に行ったとき、患者さんに対して、言葉かけをしないとイケないんです。授業の中のグループディスカッションで、他人に言われて傷ついた言葉、うれしかった言葉を話し合いました。様々な学生さんたちからの意見をまとめたところ、傷つく言葉は「自分の存在を否定された言葉、または無視された言葉」うれしかった言葉は、「自分の存在を丸ごと認めてくれた言葉」でした。そして、親から言われた言葉が多かったことが判りました。やはり、十代ですと、親から言われたことの影響が非常に大きいんですね。

アジャセというのは、自分が丸ごと肯定されていると思ってたんです。ところが、出生の経緯を知って、自分の存在を否定されてしまうわけです。最初は外へ向けられていた否定が次第に自分に向けられていったのです。アジャセは自分で自分の存在を肯定できなくなった。つまり、生きることも死ぬことも出来なくなった人間がどうやって、また生きる力を取り戻していくのか、というのが私の解釈しているアジャセ物語です。で、このアジ

ャセに対して、お釈迦様が説法をするんですけども、その説法の内容を私自身の説法として味わってみたいと思います。お釈迦様はこう言われました。

「アジャセよ、あなたは自分の心に壁を作ってその心の中で苦しい、助けてと叫び続けていました。でもあなたは心に勝手に壁を作っているから、どんなに叫んでもあなたの壁の中のこだまにしかならなかった。叫べば叫ぶほど孤独感が募る。何かをつかんで安心しようとしたけれど、安心しきれない。そういう状態でしたよね。でもそれは本当のいのちのあり方ではない。あなたは、本当のいのちのあり方を生きてはいなかった。」

ここで、お釈迦様は、「空」ということを言われました。私は、ここでお釈迦さまが説明されたことが分かりづらかったのですが、ある生命科学者のお話を聞いて実感できるようになりました。その話とは「私たちは、物質の面から見ると固体として存在していてそれぞれ、バラバラのように見えている。しかし、粒子のレベルで見ると、個体というものは粒子が密集して存在しているのです。物と物の間には肉眼で見ると、何も無いように見えるが、粒子のレベルで見ると、確かにそこにも粒子が存在しているのである。つまり、真空状態でなければ、この地球のものは全て繋がっているのである。世界というのは、一枚の布のようである」とおっしゃいました。お釈迦様という方はすごい方で、肉眼で見えない、いのちのつながりを悟られた方なんじゃないか、と思います。私たちは、肉眼で見える世界だけにとらわれがちです。本当のいのちの事実を見てみると、全てはつながりあってできている、「全ては関係しあい影響しあって存在しているのですよ」ということをおっしゃいました。これがいわゆる仏教で言う「空」と「縁起」ということなんです。全ては関係性の中で存在している。だから仏教は無我をいうんですね。なんにも無いのではなくて、自分というものが有ると思っていた心の壁が無くなったときに見えてくる、いのちの事実を無我といいます。アジャセはお釈迦様から面と向かって説法を聞きました。しかし私たちはどうやって出会うのか？親鸞聖人は、南無阿弥陀仏として出会うとおっしゃったんですね。

南無阿弥陀仏。これが、一番重要なところであり、浄土真宗の最大に難しいところです。この南無阿弥陀仏をどういただくのか。ここが浄土真宗の要です。で、この南無阿弥陀仏というを私なりに分かりやすく訳すと、「肉眼で見えない関係性の中にある本当のいのちの事実の世界に帰っておいでよ」と、阿弥陀様自身がいらして、呼びかけ続けてくださっているのが、わたしは南無阿弥陀仏だと、いただいております。「本当の命の在り方に帰ることで、自分という囚われから離れなさい」ということだと思います。この世界に帰りたく願う心、これが菩提心です。私は、信心をずっと自分の心に求めていました。そして自分の方から、信心をつかもうとしていました。しかし、南無阿弥陀仏の中にしか信心は無い。結局、一生涯お念仏していくしかない、だから、親鸞聖人は、「ただ、念仏のみぞ」とおっしゃっているんですね。共に帰りたくと、体の中から沸き起こる願いで書いたのが、この教行信証だと思います。750年の時を超えて、今も尚、私達に呼びかけ続けてくださっているんですね。それがこの、教行信証という御本だと思っ

時間が少なくなりましたが、もうひとつだけ、お話をさせてください。それは、去年亡くなった私の祖父の話です。去年の12月に祖父が亡くなりました。91歳だったんですね。その祖父は私に大きなプレゼントを残してくれました。叔父から祖父が危ないということを知り、病院にお見舞いに行きました。2回目の知らせが来たとき、正直私は躊躇しました。何でか？という、祖父は私とわがままな所が似ていたからです。それが、まるで自分を見ているようで嫌でした。しかし、弟から「お姉ちゃんは、ああしとけばよかった、こうすればよかったと、いつも後悔する、でも今回は行ったほうがいい。おじいちゃん亡くなっちゃったらもう会いたいと思っても会えないんだよ。」ということ言われたんです。弟にそこまで言われたらもう、行こうと思って、お見舞いに行きました。病室に入り、おじいちゃんに話しかけました「おじいちゃん、孫の恵子だけわかる？」。おじいちゃんは「うん、わかる、わかる」と答えました。おじいちゃんは、突然、浴衣をはだけ、自分の身体を私に見せながら、こう言いました。「よう見ときや、お前も必ずこうなるんやで！」見ると、人間はこれ程までに痩せ細ってしまうのかと思うくらいにおじいちゃんの身体は極端に痩せ細っていました。そのとき私はその言葉に何か響くものがあり、思わず手を握ってしまいました。それから祖父は、昔話だったりとか、いろんなことを私に話してくれました。ひとつ私の心に残った言葉があるんですね。それは、「ホンマにやりたいことが在るんなら、こうなる前にやっとなあかな、こんな状態になってから後悔してももう遅いわ」と言う言葉だったんですね。亡くなる2ヶ月ほど前だったんですけど、その状態の祖父に言われた一言はすごく響きました。最後まで私の手を握っていて、私が帰ろうとすると、手をギュッと握って、うなずきながらポロポロ涙を流して、「また来てな、また来てな」と人前で涙を見せたことがない祖父が泣くんですね。最後に祖父は大きなプレゼントを私に残してくれたな、と思うんです。もう何度その情景を自分の心の中で思い繰り返したことかわかりません。最後の祖父の言葉を聞いて自分なりにこう思ったんです。私は、お寺に生まれて反発もしたけれども結局、教行信証に今出会ってる。で、祖父が見せてくれたあの最後がいつ来るかわからないけど、私にも必ずそのときが来る。そのときに、結局私のやった仏教は知識でしかなかった、生き方にはならなかったっていう後悔だけは絶対したらあかん！と思ったんです。そのときが、いつ来てもいいように今を大事に生きなさい。ということ祖父が言ってくれてるように私は感じるんですね。生きていた頃は、わがままなおじいちゃんだな、と反発していたのに、死んでから何か存在が近く感じられるんですね。やっぱり、仏教が伝わるって、人の生き方を通して伝わるんじゃないかなと思うんですね。本のなかから伝わるんじゃなくて、生き様を見してくれたり、人の言葉を受け取ったり、そういう、人と人との関係性の中から伝わってくるもののように思います。今日お話をさせていただいた事は、今現在の私自身の味わいで、まだ途中経過です。ほんとに今聞いている途中ですけども、もう時間も来ました事ですし、これで、お話を終わらせていただきたいと思います。本当に、どうもありがとうございました。